

小幡城跡保全へ倒木撤去



堀底道などで樹木や竹を伐採＝小幡城跡

地元の歴史遺産を大切にしようと、茨城町小幡の町指定史跡・小幡城跡で15日、町職員や地元住民団体、民間企業社員ら130人が倒木などの撤去に当たった。チェーンソーを使って竹や木を切り、城跡に残った枯れ木をトラック13台で搬出。一部は木材破砕機で粉砕して、チップを堀底道に敷き詰めた。歴史に親しむ場として訪れやすい小幡城跡の環境整備が、地域・企業・行政の3者連携で、本格的に動き出した。

茨城町指定史跡

小幡城跡の環境整備活動には、地元の古宿区住民をはじめ、環境団体・NPO環くWAや、歴史愛好者でつくる茨城城郭会の会員が参加。そのほか、茨城日野自動車や茨城トヨタ、県信用組合奥谷支店、磯山商事などの民間企業の社員も加わった。町職員も約60人になり、小林宣夫町長がチェーンソーを駆使するなど、町幹部も汗を流し、町女性会連絡協議会会員が豚汁などを振る舞った。同城跡では昨年5月に環

掘底道にチップ

企業や住民
連携と行政

境ボランティアらが約20人で樹木や竹を伐採。今回はこれに賛同企業などが加わり、拡大して開催された格好だ。

小幡城跡は室町時代の1420年ごろに、大掾氏が築城して、子孫が小幡氏を名乗ったという伝承はあるものの、史実として確認されてはいない。とはいえ、2005年ごろに行われた発掘調査で、15世紀の遺構・遺物は確認されており、そのころ、築城されたと推測されている。1975年に町指定史跡となった。

本丸を二の郭から七の郭が取り囲み、城郭の間は幅が広い空堀で、迷路のように巡らされている。ほぼ、当時の状態が残されており、堀底道にいる敵を隠れながら狙うことができる「変形武者走り」という通路や、複雑に入り組んだ城郭、櫓跡が残るなど、城郭愛好者にとっては隠れた名所となっている。

町指定史跡となっているが、民有地であることから、ほとんど整備されていないのが現状。同町生涯学習課は「ボランティアの意欲も高く、環境整備を、地域と企業、行政の3者連携で今後も続けたい」と話している。

(武藤秀明)



弊社社長はここに
います(^。^;)